

伊勢市の環境の現状と課題（まとめ）

	伊勢市の環境の強み(活かし、伸ばす事項)	伊勢市の環境の弱み(改善する事項)	時代の要請事項など
全般的なこと	—	—	<ul style="list-style-type: none"> □ “安全” が確保されることを前提として、“低炭素” “循環” “自然共生” の各分野が、各主体の参加の下で、統合的に達成され、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近にわたって保全される「持続可能な社会」の実現が求められている。 □ 「グリーン化・グリーンイノベーション」が求められている。 □ 伊勢市の将来像は「美し風起つ回帰新生都市」である。 □ 式年遷宮を契機とした新たなまちづくりが求められている。
地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型社会のまち	<ul style="list-style-type: none"> ○ OEV 等を活用した低炭素社会事業が進められている。 ○ 環境保全の取り組みとして、ごみの分別排出やリサイクルは日常的に実施されている。また、日常生活の中で、節水や節電といった、省資源・エネルギーの取り組みが実施されている。 ○ 伊勢市が取り組んでいる『おかげさま Action!』に関する取り組みへの実施意向が高い。 ○ 事業者の電気自動車等のエコカーの導入に対する関心が高い。 ○ 太陽エネルギーや風力エネルギー、バイオマスエネルギーのうち木質バイオマス資源に比較的大きなポテンシャルがある。 ○ レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動以降、市民の意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ より積極的に環境保全に取り組むために、省エネによる光熱費節約やエコポイントの獲得といったメリットが求められている（現状ではこうしたメリットが得られない・感じられない）。 ◆ 「三重県地球温暖化対策推進条例」の認知度が低い。 ◆ 1 世帯当たりの人員は減少傾向にあり、世帯人員 1 人あたりのエネルギー消費量が高くなっていると想定される。 ◆ 年平均気温の上昇率は、100 年あたり約 1.8℃である。 ◆ 猛暑日数、熱帯夜日数は増加傾向にある。 ◆ 民生業務部門及び運輸部門のエネルギー消費量の増加が著しい。 ◆ 関連する「みんなのまちの計画」の指標について、全ての指標が未達成である。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「地球温暖化対策の推進」が求められている。 □ 「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」が求められている。 □ 「2R 型ライフスタイル、3R 型ライフスタイルの浸透・推進」が求められている。 □ 「自然界の循環と経済社会の循環」が求められている。 □ 「森林吸収減の整備」が求められている。 □ 平成 26 年 4 月 1 日より「三重県地球温暖化対策推進条例」が施行されている。
豊かな自然が守られた、水と緑と人が共生する魅力あるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊勢市のめざすまちの姿として、「海、河川、池の水がきれいなまち」が多くの人にイメージされている。 ○ 神宮林をはじめとする緑深い山々、清流宮川、五十鈴川をはじめとした水脈、穏やかな伊勢湾など豊かな自然風土に恵まれている。 ○ 環境づくりに関する取り組みの重要度として、生活排水対策、大気汚染対策の推進が特に重要と考えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大学生は、土とのふれあい、樹木や草花とのふれあいといった、自然とのふれあいの場・機会が少ないことに不満を感じている。 ◆ 希少動植物の生息・生育状況をはじめ、市域における自然環境データが不足している。 ◆ ばい煙や悪臭等の公害苦情が年間 100 件程度寄せられている。 ◆ 大気環境（光化学オキシダント）の環境基準が満たされていない。 ◆ 関連する「みんなのまちの計画」の指標について、11/14 の指標が未達成である。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「生物多様性の保全と持続可能な利用」が求められている。 □ 「自然環境データの整備」が求められている。 □ 「水・大気環境保全」が求められている。 □ 「生活排水対策」が求められている。 □ 「森・里・川・海のつながり」「里地・里山・里海の保全」が求められている。 □ 「県産材の利用促進」が求められている。 □ 平成 26 年 4 月 1 日より「みえ森と緑の県民税」が導入されている。
歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 静けさ、空気のさわやかさ、日当たりの良さに対する満足度が高い。 ○ 今後重点を置いて取り組むべき分野として、環境文化を生かしたまちづくり等の都市・快適環境分野を挙げ人が多い。 ○ 伊勢市内の大学に通う大学生にとって、歴史的雰囲気や自然景観に対する満足度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市域北東部に広がる集落・農地ゾーンでは、農業・漁業の特色を活かした景観が広がっているものの、後継者不足等により、無秩序な市街化が進行している地域もみられる。 ◆ 関連する「みんなのまちの計画」の指標について、5/7 の指標が未達成である。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「ヒートアイランド対策」が求められている。 □ 「農村漁村景観の保全」「歴史的・文化的環境保全」が求められている。 □ 「個性きわだつ歴史文化を守り継承する」ことが求められている。 □ 「コンパクトな都市づくり」が求められている。 □ 空き家対策が求められている。
協働でつくる、人と環境にやさしいまち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域での環境教育の実施又は参加、環境に良いことの普及などへの実施意向が高い。 ○ 環境保全に関連した市民活動への取組意向（参加意向）は高く、自然環境の保護やリサイクル・廃棄物対策といった活動への関心が高い。 ○ 皇學館大学等と連携し、伊勢市環境フェアにおいて、昆虫の展示や生態観察等が行われている。 ○ 環境に関する啓発・教育の充実、人材育成等を目的に、伊勢市と事業者で環境教育に関する協定を締結している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境保全に関連した市民活動に取り組んでいる人は少ない。 ◆ 環境保全に関連した市民活動に取り組んでいない、取り組みたくない理由として、活動に関する情報が得られない、活動に参加する方法が分からないといった意見が多く挙げられた。 ◆ 事業活動に関する環境保全に取り組む上での課題として、情報やノウハウ、資金の不足が挙げられている。 ◆ 関連する「みんなのまちの計画」の指標について、4/5 の指標が未達成である。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「持続可能な社会を支える人づくり・地域づくり」が求められている。 □ 「連携・協働、ネットワーク化」が求められている。 □ 「地球温暖化対策に関する教育・学習」「エネルギー教育」が求められている。 □ 「市民・事業者の活動の推進」「市民・事業者・行政の協働」が求められている。